

平成30年度 学校経営計画に対する最終報告

石川県立羽咋高等学校 No1

重点目標	具体的取り組み	担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取り組み(改善策等)
1 確かな学力と進路実現の保障 「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を進め、思考力や表現力、主体性を持って協働して学ぶ態度の育成を図り、生徒の進路実現に資することに努める。	① 授業改善を進め、生徒の思考力や表現力などの学力の向上を主体性をもって共働して学ぶ態度の育成を図る。	教務課	授業の内容は、生徒が主体的に活動する場面があり、思考力を高めることができる内容になっていると答えている生徒の割合が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満	平成30年度第2回学校評価(生徒) 授業中は、生徒が主体的に活動する場面があり、思考力を高めることに役立っている(数字は%) 1:よくあてはまる 25.8 2:ほぼあてはまる 56.8 3:あまりあてはまらない 14.9 4:あてはまらない 2.5 [1]+[2]の合計 82.6 A評価	ペアワークやグループワークを多く取り入れ、ICT機器の有効活用など、生徒が主体的に活動できる場を増やしているが、今後の授業改善で、授業内容が生徒の学力向上に実際に結びついているかを確認できる評価方法の検討や、生徒が意欲的に協力して活動に参加できる仕掛けをする必要がある。
	② 習熟度別授業等の改善を図り、個に応じたきめこまかな指導を充実する。 ・習熟度別授業の検証 ・学習意欲につながる授業改善 ・教科研究会等の充実 ・学力層に応じた指導方法の確立	教務課	習熟度別授業が学力向上に効果的であると答えている生徒の割合が90%以上の教科が A 3教科 B 2教科、またはいずれも80%以上 C 1教科、またはいずれも70%以上 D なし	平成30年度第2回学校評価(生徒) 習熟度別授業は学力向上に効果的である(数字は%) 国語 数学 英語 1:十分効果的 36.7 39.9 32.1 2:ある程度効果的 57.0 49.0 44.2 3:あまり効果がない 2.5 3.0 10.6 4:まったく効果がない 3.8 0.0 3.8 [1]+[2]の合計 93.7 88.9 76.3 C評価	3教科全体の平均は86.3%だった。今年度から行われた2年生理系の古典での習熟度別授業に対する評価が高かった。昨年に続き英語の評価が低いのが課題である。習熟度別授業で生徒による授業の振り返りシートを書かせるようにし、生徒理解や授業改善につなげる必要がある。また、きめ細かい意欲向上につながる授業の工夫や指導方法の改善をする必要がある。
	③ 高い進路目標を達成させる。 ・授業・個人面談・進路学習等とおして進路意識の高揚を図る。 ・難関大学志望者に対する添削、補習指導など組織的指導を充実する。 ・習熟度別の補習や課題を工夫し、受験に対応した指導を行う。	進路指導課 3年	ア:難関10大学・国公立医学科合格者10名以上 イ:金沢大学合格者30名以上 ウ:国公立大学合格者100名以上 以上ア～ウの項目のうち達成した項目が A 3項目 B 2項目、またはいずれも80%以上 C 1項目、またはいずれも60%以上 D なし	国公立大学最終合格者数は以下の通りである。 (過年度生含む) 北大1、東北大1、名大2、金沢大14、新潟大8 など 国公立大(計)96 D評価	個別試験対策では、小論文・面接・実技の指導や教科指導の充実で前期日程のセンター試験1次A,B判定の合格率が90%以上、C,D判定の合格率が40%以上となり一定の成果をあげた。県内私立大学の志望者数増加の現状において、進路講演会の実施と進路通信の発行を通して、低学年の段階から難関大学・金沢大学等を目指す意識づけや他県国公立大学の魅力を生徒・保護者に発信する取り組みを行う。
	④ 学習習慣の確立 ・1,2年生全員の家庭学習時間が平日3時間以上、休日5時間以上となるように、個人面談・授業での予習指導・週課題で指導する。	進路指導課 1年 2年	年間の平日家庭学習時間3時間以上達成者の割合が、 A 1,2年生ともに 65%以上 B 1,2年生ともに 50%以上 C 1,2年生ともに 35%以上 D 1,2年生ともに 20%以上	平成30年度月別家庭学習調査結果より 4月から1月までの平日家庭学習3時間以上達成者 1年年 35% 2学年 41% C評価	定期考査1週間前の平日家庭学習時間3時間以上達成者は70%であるが、平素での3時間以上達成者は1年11.3%、2年21.5%である。定期考査・外部模試の結果を個別に分析し、苦手分野の克服や得意科目を更に伸ばす課題設定を自ら行い、実践できるよう指導・支援することで、平素の家庭学習時間を伸ばす。

重点目標	具体的取り組み	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取り組み(改善策等)
2 基本的な生活習慣の確立と豊かな心の涵養 あいさつの徹底等を通してコミュニケーション能力や規範意識を向上させ、自主自律の精神のもと、他者を思いやる心を持った心身共に健康な生徒を育成する。	① 「あいさつの徹底」を通して規範意識を向上させ、自ら考え行動できる生徒を育成する。	生徒指導課	第2回学校評価(生徒)で、「挨拶をしていますか」の間に、「A必ず挨拶する」「Bだいたい挨拶をする」と答えた生徒の割合(①+②)が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	第2回学校評価(生徒)で、 「A必ず挨拶する」 32.6% 「Bだいたい挨拶をする」 60.4% A+B 93.0%で C評価	第1回の学校評価の結果94.2%から若干ポイントを下げ、昨年同時期の結果93.0%と同じであった。多くの生徒が挨拶をしっかりとっているが、まだ声が小さかったり、こちらから挨拶をしてもうつむいたままの生徒がいたりする。登校時の挨拶運動がプレッシャーになるという声も聞こえたが、挨拶の重要性を伝えながら、さわやかな挨拶が交わされるように、次年度も工夫して挨拶運動に取り組みたい。
	② 生徒間のネットトラブル等を未然に防止するための方策として、いじめに関する校内研修会やスマホ・ケータイ安全教室などを実施している。	生徒指導課	研修等によって理解を深めた、いじめ問題やネットトラブル等の予防・対応策を常に心がけ、日常の生徒指導において実践している教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	第2回学校評価(教職員)で、「いじめ問題やネットトラブル等の予防・対応策を、日常的に指導、実践している。」の問いに 「A.よくあてはまる」 31.6% 「B.ややあてはまる」 52.6% A+B 84.2%で A評価	A+Bは第1回学校評価で88.6%、昨年同時期は92.3%であったので、それぞれ4.4ポイントと8.1ポイント下回った。「C.あまりあてはまらない」も15.8%もあり、予防・対応策の日常的な指導・実践の意識がやや低下傾向にある。「問題行動が発生した場合、組織的に対応できる体制が整っている」はA+B 94.7%、「私は生徒理解を心掛け、問題行動防止のための早期指導に努めている」はA+B 97.4%といずれも高い値であるので、次年度はこの高い意識を持って教職員全員で、トラブルの未然防止や早期対応にしっかりと取り組んでいきたい。
	③ 文武両道の実践のため、学習時間の確保と部活動の時間・内容を充実させ、運動部は北信越大会以上、文化部は北陸大会以上を目指す。	生徒会指導課	北信越大会・北陸大会以上の大会に出場した部活動の数が A 9部以上 B 8部～7部 C 6部～5部 D 4部以下	インターハイへは陸上競技部、女子剣道部、少林寺拳法部、将棋の4部でいずれも個人での出場となった。加えて北信越大会へ男子剣道部、女子弓道部、男子空手道部、なぎなた部、女子ソフトテニス部、中部大会へ卓球部、演劇部が出場した。 出場11部でA評価	今年度は各競技個人での活躍が目立った。練習時間の確保が昨年度に比べると減少しているため、今後は内容重視の取り組みが必要になる。来年度に向け、団体・個人ともに北信越・北陸大会以上の出場が1部でも多くなるよう取り組んでいきたい。
	④ 基本的な生活習慣の確立の第一歩として、全ての生徒がバランスの良い食事を摂るよう指導する。	保健相談課	保健・相談課のアンケートで毎日きちんと朝、昼、晩3度の食事をとっていると答えた生徒の割合が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	「第2回学校評価アンケート」において、(常に心掛けている)77.5%、(時々心掛けている)14.6%、の合計が92.1%となり、前回の94.2%をやや下回った。 B評価	昨年度は、90%以上でA評価であったが、今年度は95%以上と判断基準を上げたため、B評価となった。90%以上の生徒が3食きちんとするよう心掛けている一方、あまり心がけていない・まったく心がけていないという生徒も存在しているので、今後も食の重要性を伝えていきたいと考えている。
	⑤ 部の顧問に協力を得て部活動単位で校外を問わず、積極的にボランティア活動をする。	生徒会指導課	複数回ボランティア活動を実施した部の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	複数回ボランティア活動を実施した部活動が24部中17部(4月～1月)で70.8% D評価	今年度は例年ボランティアとして参加していたはくい福祉祭りが台風のため中止になり活動が減少した。ただ校内ボランティアだけでも3回参加する機会がある為、来年度は今年度以上に声掛けをしたりポスターの掲示をしたりして参加を促し、実施率100%を目指したい。

重点目標	具体的取り組み	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取り組み(改善策等)
	⑥『図書だより』、『図書館報』、読書啓発企画を通して、新着図書の紹介や読書の楽しさを啓発し、読書習慣を身につけさせる。	図書情報課	生徒一人当たりの貸出数が A 5冊以上であった。 B 4冊以上であった。 C 3冊以上であった。 D 3冊未満であった。	1月最終日までの貸出総数(2414冊)を全校生徒数で割ると4.1冊となった。 B評価 *本年度、達成基準を高く設定している。	図書部や図書委員会及び先生方の協力を得て、推薦図書冊子・全生徒参加のブックレビュー作成、古本市開催などを実施、利用数・貸出数の増加に努めた。次年度以降、一層の啓発活動と促進活動に努力したい。
	⑦体育の授業で体づくり運動やチーム練習を主体的に取り組みせ、体力の向上を図る。	保健体育科	スポーツテストの結果で全国平均を上回った種目が8種目中 A 6種目以上 B 5種目以上 C 4種目以上 D 3種目以下	スポーツテスト(7月)「新体力テスト」で全国平均を上回った種目数は 男子1年1種目、2年3種目、3年1種目 女子1年4種目、2年3種目、3年2種目 平均 2.3種目 D評価	前年度は、全8種目で、全国平均を上回った種目数は3.2種目であった。今後は、運動や体力に対する意識や意欲を高める指導を行い、主体的に授業に取り組みせ、競技力や体力の向上を図っていく。
3 本校のブランドの浸透 地域との連携を深める中で「医志・教志未来塾」等の様々な実践的活動をさらに発展させ、本校の特色ある教育活動に位置付ける。	①授業公開やオープンスクールを実施することで、中学生・保護者に本校を理解してもらえよう努める。	総務課	体験入学の参加者が400名を A 大きく上回った。 B 上回った。 C 下回った。 D 大きく下回った。	体験入学の参加者は378名だった。 C評価	以前ほど体験入学の複数参加がなくなり、その影響も受けてやや減少傾向にある。今年度の内容を検討し、より魅力的な内容になるように改善し、参加生徒の人数確保に努めたい。
	②出前授業、学校説明会、羽咋高校だより、地区別高校説明会、未来塾のPR等の実施に関して、内容・方法に工夫改善を加え、今まで以上に、地域住民、中学生や保護者に本校を理解してもらえよう努める。	教務課	一般志願倍率が1.1倍に対して A 上回った。 B 同程度であった。 C 下回った。 D 大きく下回った	確定志願者倍率は、1.02倍である。 C評価	中学校主催の学校説明会、出前授業、学校だより(年4回発行)の配付、羽咋高校主催の地区別高校説明会(9カ所)など様々な機会を捉えて広報活動を行った。これらの機会を通して、未来塾や特進クラスなどの本校の新たな魅力を積極的に外部に発信し、志願者数増加に努めた。次年度以降も、志願者増につながるように生徒募集に全力で取り組みたい。
	③保護者や外部に向けて月別毎の行事予定表や実施した行事・部活動報告など、最新の情報をこまめに迅速に提供することに努め、本校の教育活動への関心・理解を深める。	図書情報課	保護者アンケートにおいて本校のホームページが「A役立つ」「Bやや役立つ」と答えた保護者の割合(1+2の合計)が A 70%以上 B 65%以上 C 60%以上 D 60%未満	「保護者アンケート」において、(よくあてはまる)・(ややあてはまる)の値が、67.5%であり、昨年度の72.9%より5%ほど下がっている。 B評価	「保護者コメント」の中には好意的な意見も見られたが、無関心な保護者も少なくないようである。一層の周知を図ると共に、関心を喚起するコンテンツの充実に努めたい。
4 教職員の多忙化改善 多忙化改善の取組として、放課後の働き方に対する意識改革と時間外勤務時間の縮減を目指す。	①平日は、機械警備が作動する19:30までに退校するために、1日の業務計画を立てる。部活動に関して、年間計画、月別計画、実施表を作成・提出して、休日に休養を確保できるようにする。業務改善にも工夫をする。	教頭	学校評価(教員)で、「多忙化改善に向けた取組」の間に、「A意識できている」「Bだいたい意識できている」と答えた教員の割合(1+2の合計)が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	第2回学校評価の結果で 「A意識できている」 36.8% 「Bだいたい意識できている」 42.1% A+B 78.9%で C評価	第1回学校評価の結果は、A31.4%、B57.1%、計88.5%であった。Aが5%増加したが、Bが約10%減少した。人数にして約4名の意識が低下したことになる。来年度は、各教科・各課・各学年で業務分担をさらに明確化し、特にホーム担任と副担任の連携をさらに強化し、担任の負担を軽減していきたい。